LTP

Vol. 30

2016.6.1 発行

Little Tern Project

こあじ通信

koajisashi

ＮＰＯ法人
リトルターン・プロジェクト通信

Contents

■Big News　森ヶ崎での最速営巣記録!!・１P
■特集・森ヶ崎の鼻干潟とコアジサシ・・２P
■表紙画の言葉・・・・・・・・・・・・・２P
■連載「コアジサシをめぐる冒険」第７回・・３P
■2016 年春の営巣地整備作業が終わりました　４P
■2015 年度営巣調査結果報告・・・・・・４P

Big News

森ヶ崎での最速営巣記録!!

今年はコアジサシの飛来が異常に早く、4 月 17 日に 70 羽の初認。24 日には 150 羽とその後も数を増やし、初認から 2 週間を過ぎた 29 日のデコイ設置時には、300 羽を確認。営巣地上空を低く飛び回り、メスとのディスプレイフライトをするもの、求愛給餌や交尾のカップルが目撃でき、早々と営巣が始まる雰囲気が濃厚でした。すでに降りて抱卵をしていたコアジサシへの影響を考えて、デコイ設置の規模を小さくし、設置後のプチ調査では 17 巣を確認。そのうち 4 巣が 2 卵での営巣で、4 月中に卵を産むという、初記録づくしのコアジサシ初卵確認になりました。◎速報 5 月 7 日の調査で推定 326 巣が確認されました。最新情報は LTP ブログをご覧ください！！

4 月 17 日、コアジサシ 70 羽、初認。

4 月 29 日 17 巣、抱卵確認。

4 月 29 日、初卵確認。

特集『森ヶ崎の鼻干潟とコアジサシ』大塚 豊

名前の由来など

森ヶ崎の鼻干潟、ちょっと変てこな名ですが、これが正式名称で、森ヶ崎の直ぐ前（鼻先）にある干潟という意味です。森ヶ崎水再生センター屋上営巣地がある昭和島の南東側に位置し、東京都内としては葛西と並ぶ干潟面積を有しています。

三者コラボの魚捕獲作戦

コアジサシたちはこの干潟でカタクチイワシをはじめ、マハゼ・ボラ・スズキ・コノシロなどの小魚を捕食しています。しかし、魚食系の野鳥はコアジサシだけではなく、カワウやサギ類（コサギ・ダイサギ・アオサギ）なども魚を主食にしています。そうなると、魚をめぐってさぞかし激しい争奪戦が繰り広げられるかと想像される方もいるでしょう。実際には、これらの鳥たちが争うどころか、むしろ互いに協力して漁をしているようなのです。空中からダイビング型のコアジサシ、水中素潜り型のカワウ、岸辺を歩行・待ち伏せ型のサギ類が、それぞれの得意技を駆使して採餌しています。陸・海・空から魚を囲い込むということで、捕獲の効率が上がるのかと思われます。カワウとサギ類は留鳥ですが、コアジサシは夏鳥ですので、三者コラボの採餌は夏季限定の光景ということになります。

オリンピックと干潟の保全

森ヶ崎の鼻干潟はコアジサシにとってまさにライフラインそのものです。採餌はもちろんですが、水浴・休息・求愛・交尾あるいは巣立った幼鳥の訓練のため、大部分のコアジサシがここを利用しています。この干潟なくしては森ヶ崎営巣地の存続不可能と思われます。

ところが、東京五輪 2020 に向けて羽田空港と都心を結ぶ水上航路の計画が 2015 年明らかになりました。今のところは干潟の際を迂回するルートということではありますが、浚渫（しゅんせつ）して干潟を突っ切るルートに変えられてしまう怖れも皆無ではないようです。今後もしっかり監視しておかなくてはなりません。

獲物を狙う

マハゼを捕獲

カワウの採餌

コサギとダイサギの採餌

コアジサシの採餌

干潟のコアジサシとメダイチドリ

■表紙の画　喜多村　紀

『東京から南房総に移り住んで二十年。初春から夏にかけてはウグイスがうるさいくらいだし、五月になればホトトギスが空を裂いていきます。コゲラ、ヤマガラ、エナガなども良く目にします。海辺に行けば、イソヒヨドリに会うこともある。夜になればアオバズクやフクロウ、トラツグミが鳴きます。一度だけですが、オオアカゲラを見ました。キツツク音がコゲラの何十倍も響くのでした。』

1953 年東京生まれ。画家、造形作家。LTP 増田とは高校の同級である。

荒い海の彩（いろどり）が渡りの厳しさを彷彿させ、本能のままに飛び続ける、あきらめにも似た、永遠なる飛行。強風にあおられながらも、飛び続ける姿が感動的です。今回、コアジ冊子 30 号を機に喜多村さんに「こあじ冊子」のロゴを作っていただき、オシャレなロゴに生まれ変わりました。

連載　コアジサシをめぐる冒険

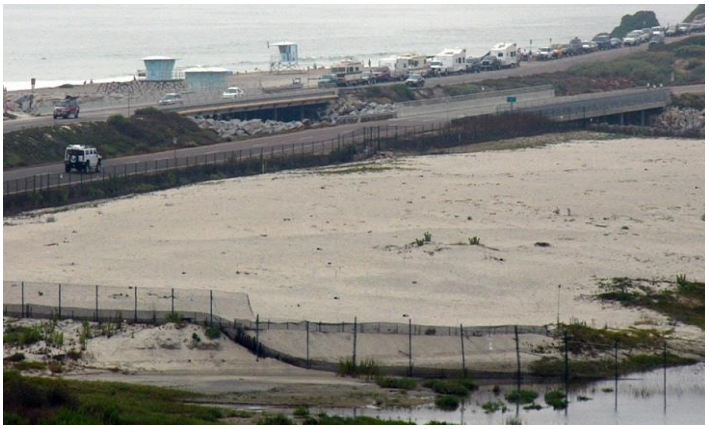
―　第７回　人間との軋轢　―

早川　雅晴

NPO 法人リトルターン・プロジェクト副代表　水鳥研究会代表　　植草学園大学准教授

コアジサシの繁殖阻害要因

これまで造成地での営巣環境の保全について触れてきましたが、今回は本来の営巣地の１つである砂浜での保全についてです。砂浜でのコアジサシの繁殖阻害要因には、台風や高潮などの自然環境によるものもありますが、より大きな要因はレジャー等を楽しむ人が営巣地域に長い時間侵入することによる営巣の放棄や、卵が踏みつぶされる直接的な被害です。



アメリカの恒久的な営巣地。強固なフェンスで守る

砂浜での棲みわけ

静岡県・遠州灘の海岸では、海水浴を楽しむ人だけではなく、４輪バギーを楽しむ人がいて、コアジサシの繁殖に脅威を与えていました。バギーは卵や雛を直接ひき殺す可能性があるだけでなく、通った後の轍が雛の移動の妨げになります。同所的に産卵が見られるウミガメの場合は、幼体が轍を乗り越えられず、海へたどり着けない問題があります。そこで、1990 年代初頭に、この地域で環境保全活動を行っている団体が車両の進入を防ぐための保護柵を設置しました。保護柵は砂浜に杭を打ち付け、その間をロープでつないだものです。この保護柵によりコアジサシとの棲み分けができ、繁殖地内への人の侵入を防ぐことが期待されました。しかし、バギーに乗って杭の脇を通り過ぎようとした人が、ロープに気付かず首に引掛るという死亡事故が起きてしまいました。一方、海水浴に来ていた子供をバギーが轢いてしまった事故も起きました。当時、砂浜を棲み分けて利用するという意識が浸透していなかったため、環境保護団体・海水浴客・バギー愛好者間で緊張状態にありました。

アメリカ海軍基地内の営巣地フェンス

アメリカの事例から

そんな状況下、千葉県・九十九里浜でも保護柵を設置しようということになりました。静岡での事例があったので、千葉県立中央博物館の桑原先生・千葉県の行政担当の方々・地域の方々が連携をとりながら慎重に準備を進めていった結果、これまでレジャーで利用する人達とも大きなトラブルは起こっていません。

茨城県鹿嶋市の砂浜に作られた簡易柵

その後も全国各地の砂浜で、コアジサシを含むウミガメ・海浜植物の保護のための柵を設置しており、一定の成果が得られています。ただし、杭を打ってロープを張っただけの柵では、雛が柵の外側へ移動してしまいます。アメリカでは写真のように雛が保護区の外に出ない工夫がされています。日本でも次の段階として検討が必要と思われます。

つづく

2016 年春の整備作業が終わりました

春の営巣地整備作業

1月の整備作業下見に始まり、2月の整備作業準備、ボランティアさんを募集して3月末の森ヶ崎水再生センター屋上営巣地整備作業、4月に入ってからはスタッフ作業、企業CSR活動をお願いして貝殻撤き作業を行い、29日の昭和の日、この日はリトルターン・プロジェクトのデコイ記念日です。最後の総仕上げ作業にコアジサシのデコイ設置作業を終え、コアジサシを迎える準備が整いました。
今年も多くの皆さまにお手伝いいただきました。ボランティアさんスタッフを合わせて延216名の皆さまのお力の賜物です。おかげさまで、一連の2016年春の森ヶ崎水再生センター屋上営巣地整備作業を無事に終えることが出来ました。
　ここにスタッフを代表して、ご参加いただきましたすべての皆さまに感謝申し上げます。
　誠にありがとうございました。お疲れ様でした。
　また、ご協力いただきました東京都下水道局森ヶ崎水再生センター様、大田区環境計画課様に御礼申し上げます。

貝殻撤き作業

デコイ設置作業

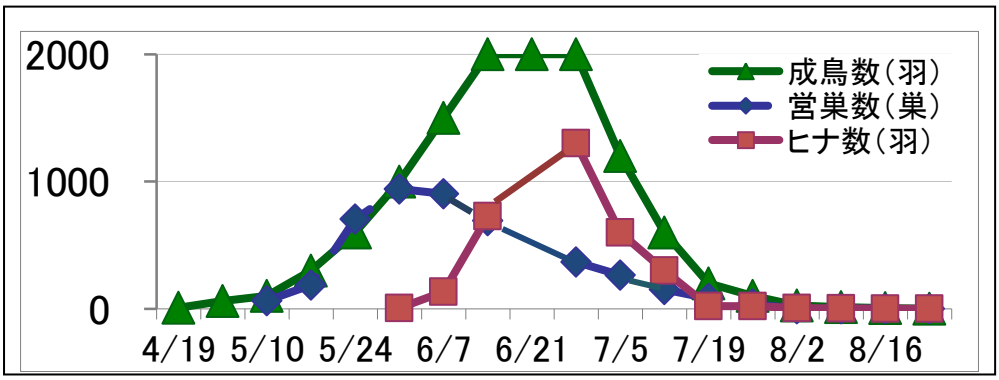
保護整備部会リーダー　松村　雅行

2015 年度営巣調査結果報告

	成鳥数(羽)	営巣数(巣)	ヒナ数(羽)
4/19	8		
4/29	60		
5/10	100	63	
5/16	300	186	
5/24	600	704	
5/30	1000	942	6
6/7	1500	904	134
6/13	2000	692	728
6/21	2000		
6/27	2000	368	1300
7/5	1200	264	600
7/11	600	150	300
7/19	200	80	20
7/25	100	38	20
8/2	25	0	6
8/8	12	0	3
8/16	4	0	0
8/22	0	0	0

総営巣数　　1531 巣（過去 2 位）
ふ化数(推定)　2200 羽（過去 1 位）
巣立った幼鳥(推定)　1100 羽
と、営巣地整備やカラス対策の成果が実りました。

調査研究部会リーダー　奴賀俊光



リトルターン・プロジェクト活動概要

2001年に絶滅危惧Ⅱ類の野鳥コアジサシの屋上営巣を大田区昭和島にある森ヶ崎水再生センター施設屋上で発見した私たちは、東京都下水道局や大田区、そしてたくさんのボランティアの協力を得て、世界初の屋上営巣地を整備しました。コアジサシの生息域である、砂浜や玉砂利河原、そして干潟などの水辺環境が失われつつある現在、コアジサシをキーワードにそのような水辺環境の保全を視野に入れ、自然と人間の共生を目指して活動しています。

（この取組は東京都下水道局と大田区の協力を得ています。）

会員になって一緒にコアジサシを守りましょう！

NPO法人リトルターン・プロジェクトでは、随時会員を募集しています。　わたしたちと一緒に絶滅の恐れのある野鳥“コアジサシ”を守りませんか？

◇入会届のダウンロード先◇
http://www.littletern.net/nyukai.html
◇入会届の送付先◇
〒143-0015 東京都大田区大森西 5-10-22 増田方
NPO 法人リルターン・プロジェクト宛
または、右記の問い合わせ先へご連絡ください。

◇発行：NPO法人リトルターン・プロジェクト
◇編集　増田　直也
◇写真　大塚　豊　・　早川　雅晴　・　松村　雅行　・　増田　直也ほか
◇表紙画・「こあじ冊子」ロゴデザイン　喜多村　紀
◎無断転載・複写複製を禁じます
☆お問い合わせ先
〒143-0015 東京都大田区大森西 5-10-22 増田方
NPO 法人リトルターン・プロジェクト
E-mail：info@littletern.net　Tel:090-1778-5917
Website-URL http://www.littletern.net/
ブログ更新中 http://d.hatena.ne.jp/littletern/